

情報メディア教育研究センター

【2024 年度大学評価総評】

「2021-2024 中期事業実行計画」にもとづく年度計画の進捗状況を、所員会議や運営委員会で定期的に総括していること、外部評価委員会による点検も行っていることは大変評価できる取り組みである。2024 年度には重点目標に対するアクションプランとしての2つのプロジェクトを含む13のプロジェクトの実施を計画しており、その成果に期待したい。

大学基準協会の第4期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認	
2024 年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	すべての評価項目で「はい」が選択されており、充足していることが確認できた。

【2024 年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準1 理念・目的

1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①研究所（センター）の理念・目的を明らかにしていますか。	はい
1.1②研究所（センター）の理念・目的を規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
センター概要 :: 法政大学 情報メディア教育研究センター https://www.hosei.ac.jp/media/about/ 法政大学情報メディア教育研究センター規程 https://www.hosei.ac.jp/kyoshokuin/kitei/doc/rule/684.html	

基準2 内部質保証

2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①研究所（センター）において、研究所長（センター長）及び運営委員会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②研究所（センター）において、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
法政大学情報メディア教育研究センター規程 https://www.hosei.ac.jp/kyoshokuin/kitei/doc/rule/684.html 法政大学情報メディア教育研究センター運営委員会規程 https://www.hosei.ac.jp/kyoshokuin/kitei/doc/rule/687.html 2023 年度 第3回運営委員会 資料8 2023 年度 外部評価委員会 資料2, 資料3, 資料4	

基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準4 教育・学習

部局による自己点検・評価は実施しない

基準5 学生の受け入れ

部局による自己点検・評価は実施しない

基準 6 教員・教員組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準 7 学生支援

部局による自己点検・評価は実施しない

基準 8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
センター規程 002号 研究倫理委員会内規	

基準 9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
情報メディア教育研究センターシンポジウム 2024 AI と教育 https://www.hosei.ac.jp/media/research/activitiy/symp2024/ 法政大学情報メディア教育研究センター研究報告 https://www.jstage.jst.go.jp/browse/rccms/	

基準 10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
基準を選択してください	
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	

II 改善・向上の取り組み

1 2023 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2023 年度大学評価結果総評】（参考）
18 の情報メディア教育センター研究プロジェクト及び 38 のラボラトリを利用した研究プロジェクトの実行とともに、エビデンス駆動型 SIG1/SIG5 研究会の共催や、情報メディア教育研究センターシンポジウムが開催され研究活動は活発である。また、エジプトの South Valley 大学、トルコの Hacettepe 大学とのオンラインによる共同研究の検討、26th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems での招待セッションの企画など、他大学や世界に向けた研究成果の情報発信としても高く評価できる。対外的に発表した研究業績は研究報告 10 件、学会発表及び公表論文 48 件でコンスタントに高水準を維持している。研究成果については、研究報告のダウンロード件数が高く、社会的に高い評価を得ている点で注目値する。

教員・教員組織としては、所員会議が10回開催され、3カ月ごとに自己点検レビューを4回行うなど徹底した自己評価システムが構築できている。さらに、外部評価委員会を設置し、組織評価を行っている点についても評価に値する。年度目標達成状況報告書において、達成指標の数値目標が実施回数や実行計画達成率で設定されており客観的な評価としても目標を十分に達成しているとみなすことができ、質は高度に保たれていると評価できる。

【2023年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

本研究センターの2023年度の重点目標は「広報活動の強化と学内組織との連携」であり、そのアクションプランとして立案した研究プロジェクト「MPSサービスの利用推進」「1ab2022ドキュメント整備」「プログラム高速化支援研究」「学習ログに基づく適切な画像と学習ノートを推薦するユビキタス学習環境の構築と評価」はいずれも100%の達成率を得ている。

また、本研究センターでは、研究プロジェクトの可視化と達成度の数値化に基づく管理方法を確立しており、四半期ごとに所長、副所長、3名の専任所員からなる所員会議、加えて半年ごとに運営委員会にて自己点検レビューを行った。その結果、研究活動については99%、社会貢献・社会連携については100%の達成率となった。

2 各基準の改善・向上

基準6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①研究所（センター）内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

III 2023年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	理念・目的	
中期目標	「法政大学情報メディア教育研究センター規程」として目的や事業は定められているため、中期目標として設定しない。	
年度目標	—	
達成指標	—	
年度末報	執行部による点検・評価	
	自己評価	—
	理由	—

告	改善策	—
評価基準		内部質保証
中期目標		—
年度目標		別紙「2021-2024 中期事業実行計画」にて計画した 2023 年度の実行計画の進捗状況を所員会議および運営委員会にて定期的にレビューする。 また、外部評価を継続的に行う。
達成指標		2023 年度実行計画を 4 半期毎に所員会議にてレビューを行い、半期毎に運営委員会にてレビューを行う。また、外部評価を行う。 S: A に加え別視点からレビュー実施 A: 所員会議 4 回 & 運営委員会 2 回 & 外部評価 1 回 B: 所員会議 4 回 OR 運営委員会 2 回以上 C: 所員会議 2 回 OR 運営委員会 1 回以下
年 度 末 報 告	執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	下記のレビューを実施した。 ・所員会議によるレビュー4回(7/11, 10/10, 1/10, 3/12) ・運営委員会によるレビュー4回(7/25, 10/30, 1/25, 3/21)、うち2回は中間レビューとし別視点から実施 ・外部評価委員会内規に基づく3名の外部委員による外部評価委員会(2/28)
	改善策	—
評価基準		研究活動
中期目標		【方針1】計算科学とデータサイエンスの研究基盤の整備 1-1. 研究基盤としてのハードウェアとソフトウェアの戦略的整備 1-2. 研究基盤の利活用のためのヒューマンウェアの整備 1-3. 研究成果のオープン化 【方針2】ICT を活用した新たな教育モデルの研究の推進 2-1. 学びのモデル化に関する基礎的研究 2-2. ICT を様々な分野に活用した教育実践 【方針3】大学院・コミュニティ・企業との共同研究の推進 3-1. 連携プロジェクトの実施
年度目標		左記の方針を実現するためのプロジェクトとして 2023 年度は次の 19 のプロジェクトを実施する。 (1)MPS サービスの利用推進 (2)プライベートクラウド基盤の利用状況可視化の検討 (3)lab2022 上での数値計算・ディープラーニングライブラリの基盤開発 (4)計算科学シミュレーションソフトウェアの基盤開発 (5)lab2022 ドキュメント整備 (6)プログラム高速化支援研究 (7)広報チャンネルの有効活用 (8)研究報告の TeX 入稿対応 (9)情報メディア教育研究センターシンポジウム 2024 開催 (10)Hybrid 教室におけるアクティブラーニングモデルを実装する EdTech (11)第二言語習得に関するタスクベース教授法 (12)xR 技術を活用した教育支援ツールの開発 (13)学習ログに基づく適切な画像と学習ノートを推薦するユビキタス学習環境の構築と評価 (14)Emotion-aware Learning Analytics に関する研究開発 (15)LMS ログを用いたラーニングアナリティクス (16)Human-Robot Interaction (HRI)に関する研究 (17)計算科学共同研究

	(18) LAaaS-docker の展開 (19) 「データ駆動型の教育」の実現に向けた実証、基盤開発およびポリシー検討	
達成指標	年度目標にて設定した実行計画達成率で評価する。 S: 90%以上 A: 80 - 89% B: 70 - 79% C: 70%未満	
年度末報告	執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	別紙 2021-2024 中期事業実行計画 - 2023 にて、研究プロジェクト(1)～(19)の達成率が 99%となった。
	改善策	—
評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	3-2. 学会等研究コミュニティへの貢献	
年度目標	左記の方針を実現するためのプロジェクトとして 2023 年度は次のプロジェクトを実施する。 (20) コミュニティ活動の推進	
達成指標	年度目標にて設定した実行計画達成率で評価する。 S: 90%以上 A: 80 - 89% B: 70 - 79% C: 70%未満	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	別紙 2021-2024 中期事業実行計画 - 2023 にて、研究プロジェクト(20)の達成率が 100%となった。
	改善策	—
【重点目標】 広報活動の強化と学内組織との連携を重点目標とする。		
【目標を達成するための施策等】 本重点目標に対するアクションプランとしてプロジェクト(1)(5)(6)(13)を立案している。		
【年度目標達成状況総括】 今年度の重点目標は「広報活動の強化と学内組織との連携」であり、アクションプランとして研究プロジェクト(1)(5)(6)(13)が 100%の達成率となった。これらにより、学内組織との連携と研究成果の展開を推進できた。また、内部質保証、研究活動、社会貢献・社会連携の項目で全て S の自己評価を得たことから、期首の目標を達成できた。四半期ごとの所員会議によるプロジェクトレビューが有効に機能し、プロジェクト推進のための具体的な施策をディスカッションする機会となった。		

IV 2024 年度中期目標・年度目標

評価基準	理念・目的
中期目標	「法政大学情報メディア教育研究センター規程」として目的や事業は定められているため、中期目標として設定しない。
年度目標	—
達成指標	—
評価基準	内部質保証
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 別紙「2021-2024 中期事業実行計画」にて計画したそれぞれの実行計画の進捗状況に関する所員会議および運営委員会における定期的レビューの実施 外部評価の実施

年度目標	別紙「2021-2024 中期事業実行計画」にて計画した 2024 年度の実行計画の進捗状況を所員会議および運営委員会にて定期的にレビューする。 また、外部評価を継続的に行う。
達成指標	2024 年度実行計画を 4 半期毎に所員会議にてレビューを行い、半期毎に運営委員会にてレビューを行う。また、外部評価を行う。 S: A に加え別視点からレビュー実施 A: 所員会議 4 回 & 運営委員会 2 回 & 外部評価 1 回 B: 所員会議 4 回 OR 運営委員会 2 回以上 C: 所員会議 2 回 OR 運営委員会 1 回以下
評価基準	研究活動
中期目標	【方針 1】 計算科学とデータサイエンスの研究基盤の整備 1-1. 研究基盤としてのハードウェアとソフトウェアの戦略的整備 1-2. 研究基盤の利活用のためのヒューマンウェアの整備 1-3. 研究成果のオープン化 【方針 2】 ICT を活用した新たな教育モデルの研究の推進 2-1. 学びのモデル化に関する基礎的研究 2-2. ICT を様々な分野に活用した教育実践 【方針 3】 大学院・コミュニティ・企業との共同研究の推進 3-1. 連携プロジェクトの実施
年度目標	左記の方針を実現するためのプロジェクトとして 2024 年度は次の 13 のプロジェクトを実施する。 (1) プライベートクラウド基盤の利用状況可視化の検討 (2) lab2022 上での数値計算・ディープラーニングライブラリの基盤開発 (3) 計算科学シミュレーションソフトウェアの基盤開発 (4) プログラム高速化支援研究 (5) 情報メディア教育研究センターシンポジウム 2025 開催 (6) 教育における VR (7) xR 技術を活用した教育支援ツールの開発 (8) ボトムアップアプローチによるデータサイエンス教育の改善 (9) 生成 AI と学習ログに基づく単語学習の適切な画像と学習ノート推薦問題を解決する研究 (10) LMS ログを用いたラーニングアナリティクス (11) Human-Robot Interaction (HRI) に関する研究 (12) 計算科学・可視化共同研究 (13) 「データ駆動型の教育」の実現に向けた実証、基盤開発およびポリシー検討
達成指標	年度目標にて設定した実行計画達成率で評価する。 S: 90%以上 A: 80 - 89% B: 70 - 79% C: 70%未満
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	3-2. 学会等研究コミュニティへの貢献
年度目標	左記の方針を実現するためのプロジェクトとして 2024 年度は次のプロジェクトを実施する。 (14) コミュニティ活動の推進
達成指標	年度目標にて設定した実行計画達成率で評価する。 S: 90%以上 A: 80 - 89% B: 70 - 79% C: 70%未満

【重点目標】

大学院・コミュニティ・企業との共同研究の推進を重点目標とする。

【目標を達成するための施策等】

本重点目標に対するアクションプランとしてプロジェクト(12)(13)を設定し、臨時職員・RAの積極的な採用を予定している。